

中部ESD拠点運営委員会（第11回）議事メモ

日 時 平成20年10月16日（木）16時30分～20時30分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（810号室）

出席者 竹内委員長、寺井、新海、小山（千頭の代理）、村瀬（天野の代理）の各委員

オブザーバー 武者小路、羽後、黒岩

事務局 古澤、岡本、永田

議 事

1. 中部ESD拠点ロゴマークの審査について

事務局から、ロゴマークの最終審査の結果と、選定された作品は商標登録事前調査を終えてから最終的に中部ESD拠点ロゴマークとして決定する旨の報告があった。

2. 第2回中部ESD拠点総会について

事務局から、以下の「第2回中部ESD拠点協議会総会議事案」が提出された。

事業報告

- ・第1回中部ESD拠点フォーラムの実施(中部大学名古屋キャンパス：1月14日)
- ・中部ESD拠点ホームページの構築 (URL=<http://www.chubu-esd.net>)
- ・国内のESDネットワークの情報交換
 - ESD地域拠点(RCE ESD)の国内連絡会議(岡山県・岡山市：2月 日)
 - ESD-J全国ミーティング(東京都・立教大学：3月 日)
- ・国際的なESDネットワークの情報交換
 - 第1回RCEアジア・太平洋若者会議(宮城県・仙台市：2月 日)
 - 第3回RCE世界会議(スペイン・バルセロナ7月2日～4日)
 - RCEアジア・太平洋会議(韓国・トンヨン：10月23～25)
- ・運営委員会の開催
 - 開催回数と会議記録について
- ・共催及び後援事業の報告
 - 共催事業：第1回伊勢・三河湾流域圏フォーラム(中部大学：1月27日)
 - 後援名義依頼事業(件数と内容)

経費執行状況

- ・中部ESD拠点経費執行状況

事業方針

- ・運営委員会から来年度の活動計画提示
 - 生物多様性COP10への貢献
 - 伊勢・三河湾流域圏マイナス80計画
 - 伊勢・三河湾再生計画との連携
 - フラッグシップ・プロジェクトの推進

予算案

- ・特になし（ 助成金申請の結果など報告）

規約

- ・中部 ESD 拠点協議会の後援名義使用等に関する要綱の制定

組織について

- ・中部 ESD 拠点協議会参加団体について（ 配布資料：参加団体リスト）
- ・運営委員会委員の補充について
 - 1．名古屋ユネスコ（国際交流系団体）
 - 2．DEE21（企業系団体）

この議事案に対して、以下の意見交換、確認等を行った。

「経営執行状況」

- ・現在拠点経費はなく、中部大学が支援として支出したものを記す。
- ・総会では中部大学の支援による「収支決算書」として示す。
- ・「ロゴマーク審査」の実績を加える。

「事業方針」

- ・「拠点としての機能をどのように強化させるか」の策を加えてほしい。

3．協議会加盟団体の承認について

2 団体が新たに協議会加盟団体として承認された。

「ふゆみずたんぼ・知多普及会」と「NPO 法人 HOMIES」

4．協議会及び運営委員会の運営体制について

村瀬氏から、運営委員会の機能強化を行うため、体制の見直しを行うべきでは、との意見があり、この意見に対して、主に以下の論点で種々意見交換、確認等を行った。

- ・運営委員会の運営委員に担当制を加え、拠点活動の総括を運営委員会がまとめる。実際に動くのは市民推進会議にどうかたちはどうか。（村瀬）
- ・拠点の情報が事務局に集約している現状を軽減し、情報などの共有化と即効性を高めるのはどうか。情報は運営委員会が集約し、事務局及び会員に伝えるという仕組みを作るのはどうか。（村瀬）
- ・副代表を2名にし、その1名に市民推進会議の代表が担うのはどうか。（村瀬）
- ・今まで具体の事業がなかった。事業があったときに組織強化は必要（竹内）
- ・今までの協議会は連絡会であった。これから連絡会でやっていくのか、事業体でやっていくのか

- か？ によって運営委員会の体制のあり方も変わる。(黒岩)
- ・アンブレラがこの拠点のメインの機能だとは思いますが、協議会若しくは運営委員会がめざすアンブレラたる機能なんなのか、よくわからない。
 - ・オブザーバーと運営委員の区別を行う必要があるのか。(村瀬)
 - ・中部E S D拠点設立前から深く関わってきた人や、企業の方等を運営委員会に加える必要があるのでは。今現在の運営委員会の体制に大きな問題があるわけではないが、もっといろいろな人を募り、アイデアは結集すべきでは。(村瀬)
 - ・運営委員会は確かに限度がある。でもただ増やすだけでも合意ができない。例えば実行委員会方式みたいにどんどん事業に併せて組織を増やし、その管理を運営委員会が行う、というやり方はどうか。(寺井)
 - ・たくさんの方が集まってできるだけ知恵が集まった方がいい。しかし根本的には経費の問題がある。(竹内)
 - ・市民推進会議は、参加団体各団体の個人のネットワークである。市民推進会議は運営委員会と目的が一緒で表裏一体の関係であるべきである。だから他の参加団体と推進会議は差異を設けるべきでは？(村瀬)
 - ・市民推進会議のネットワークは現実的には広がっていないのでは？(寺井)
 - ・中部E S D拠点発足前、拠点の協議会に団体と個人の両方が入ることができれば、という提案があった。しかし団体だけではないと駄目という国連大学の規定で実現できなかった。その代替としての性格が市民推進会議である。(武者小路)
 - ・例えば運営委員会の委員を個人と団体半々はどうか。(竹内)
 - ・市民推進会議だけが市民ではない。(新海)
 - ・参加団体に入っている市民だけでなく、それ以外の一般市民(例えば学校の先生)とかも運営委員会に入れるルールが必要では(武者小路)
 - ・オブザーバーの中でまた役割、肩書きに差異をつける必要があるのでは。

これらの意見交換を踏まえ、竹内委員長が次回運営委員会までに「運営委員会体制案」を提出することになった。

5. その他

1) モリコロ基金(大規模活動)の申請について

黒岩氏より、モリコロ基金の大規模活動に対する支援金を申請することについて提案があり、協議会名義で申請することとした。

2) 次回運営委員会の開催について

次回運営委員会を、11月6日(木)17:30時から、中部大学名古屋キャンパスで開催することとした。

以上